

地域医療学実習 レポート

学籍番号： 4314100166

氏名： 相良 早紀

実習先： 中之島、諏訪之瀬島

実習期間： 平成 31 年 4 月 20 日 ~ 4 月 25 日

1. 環境

中之島：

面積は 34.47 平方キロメートル。

周囲は 31.80 キロメートル。

北緯 29 度、東経 129 度に位置する。

最高標高点は 979 メートル。

フェリーとしまで、約 7 時間要する。

十島村最大の島である。

活火山である御岳（トカラ富士）があり、1914 年に噴火した。現在でも噴気が盛んである。

山腹には野生化したトカラヤギが生息している。植物では、ソテツやビロウなどの木々が生い茂っている。島バナナも見ることができる。

水深約 4m の御池（底なし沼）もある。島内には温泉も湧き出ている。

亜熱帯と温帯の交差地域であり、温暖で無霜地域であるが、暖流である黒潮の本流からは少し離れているため、冬場はまれに氷点下になることがある。日照時間が短く、日本でもっとも日照時間が短い地域のひとつである。

西洋種の影響を受けていない日本在来馬のトカラ馬が飼育されている。



諏訪之瀬島：

面積は 27.66 平方キロメートル、

周囲は 27.15 キロメートルである。

北緯 29 度、東経 129 度に位置する。

最高点は御岳の 799 メートル。

十島村の中で 2 番目に大きい島である。

御岳は現在も活発に噴煙をあげている。

文化 10 年（1813 年）の大噴火でほとんどの人家は消滅し、全島民が避難したため約 70 年間は無人島になった。明治期になり藤井富伝らが入植開拓した。

北西部の溶岩台地にはマルバサツキが群生する。

リゾート開発の名残である空港跡地がある。船でのみ行くことができる作地温泉や、乙姫伝説が伝わる洞窟など自然豊かな名所が存在する。

島には多くの大名竹が生い茂っている。周囲の海はカツオ、サワラ、伊勢エビ、トビウオなどの好漁場として知られている。

2. 社会的背景

中之島：

人口は158名。

世帯数は89世帯。

公共の機関として、十島村役場中之島支所、十島村に唯一存在する鹿児島中央警察署中之島駐在所、中之島診療所、中之島小中学校がある。

住民の多くは農業、漁業、畜産業などの第一産業に従事している。

人口の推移については、十島村役場が人口増加対策を行っており、移住者などが増加している。

諏訪之瀬島：

人口は63名、

世帯数は33世帯である。

公共の機関として、諏訪之瀬島出張所、諏訪之瀬島診療所、諏訪之瀬島小中学校がある。

住民は農業、漁業、畜産業などの第一次産業に従事している。

1970年代の移住者も多数住んでいる。

山間留学として、本土から来ている小中学生もいる。



3. 医療供給体制

中之島：

中之島診療所がある。

医師、看護師が常駐している。十島村を巡回する医師の拠点となっている。

緊急時は、ドクターヘリや自衛隊のヘリ等が使用される。

諏訪之瀬島：

諏訪之瀬島診療所がある。

看護師2名常駐している。医師はおらず、巡回診療に頼っている。

緊急時は、ドクターヘリや自衛隊ヘリ等が使用される。

実習概要

日付	内容
4月20日	フェリーとしまで移動
4月21日	<p>中之島の公民館で診療の準備を開始した。こじか号から荷物を運び出し、ポータブルユニットや道器具、材料などの診療体制を整えることから始まる。</p> <p>巡回診療初日から幼児から高齢者まで多くの患者さんが来院された。</p> <p>島内の小中学生の歯科検診を行い、治療が必要な子供には保護者に同意をとって治療を行っていた。</p> <p>高齢者の抜歯、義歯調整、小児のシーラント、う蝕処置、口腔清指導、歯石除去、PMTC、コンポジットレジン充填などを行った。</p>
4月22日	<p>中之島での治療2日目。</p> <p>前日に引き続き、小児のシーラント、義歯調整、口腔清掃指導、小児の感染根管治療、感染歯質の除去、歯石除去、口腔清掃指導、PMTC、コンポジットレジン充填、歯周組織検査を行った。</p> <p>初日よりも、患者数は落ち着いていた。前日に義歯調整を行った高齢の女性が最後に来院した。</p>
4月23日	<p>諏訪之瀬島へ村の高速船「ななしま」で移動した。</p> <p>こじか号は中之島で待機するという。</p> <p>諏訪之瀬島においても、公民館にポータブルユニットや器具、材料などを運び込み、診療準備を行った。</p> <p>小中学校で授業が行われるため、学校の先生に引率された小中学生が学校検診を受けていた。治療が必要な場合は先生が保護者に電話で同意をとって治療を行っていた。</p> <p>義歯調整、う蝕治療、コンポジットレジン充填、歯石除去、口腔清掃指導、PMTCなどを行った。</p> <p>こじか号がないため、エックス線写真は撮影後に自ら現像液を用い、手作業で現像を行った。</p>
4月24日	<p>諏訪之瀬島2日目。</p> <p>前日に引き続き口腔清掃指導、PMTC、メンテナンス、歯周組織検査等を行った。</p> <p>2日目は成人が多かった。</p> <p>島に駐在する看護師さんや同行している歯科衛生士さんと協力しながら、様々な全身状態や、様々な口腔衛生状態の患者さんの診療の介助を行った。</p>
4月25日	朝からフェリーで9時間かけ諏訪之瀬島から鹿児島港へ帰路につく。



振り返り記録

私にとって、6日間の離島巡回実習は初めて経験することばかりで、へき地での医療について深く考える大きなきっかけとなった。

初日に鹿児島港から中之島へ移動するフェリーとしまに乗るときには、鹿児島大学病院関係者の多くの先生方が見送りに来て下さり、たくさんの差し入れを頂いた。そしてフェリーに乗って7時間ほどして、最初の島である中之島に到着した。フェリーからみえる海には、朝陽にキラキラと光るトビウオがいくつも見えた。中之島は緑が豊かな島であった。

最初に公民館に着くと、さっそく準備がはじまった。こじか号から様々な材料や器具を次々と運び出し、準備を整えた。ユニットは2台体制で診療を行った。

初日から、多くの子供や高齢者が診察を受けにきており、慌ただしかった。

私が問診をとった高齢者は、半年ほど歯がグラグラして気になる、ということをお話されていた。もしも、近所に歯科診療所がある地域に住んでいる方ならば、気軽にすぐに受診し治療を受けることができるであろう。しかしながら、患者さんは離島巡回診療が開かれるのを待って、受診されていた。歯科医師のいない離島に住む人々の生活や、医療について様々に考えることができた。島に住む人々は、みな、「島は不便ではあるけれども、とても住みやすいし、大好きだ」とおっしゃっていた。私は、離島診療へ行くまでは、あまりこの言葉の意味を理解できなかったかもしれない。しかし、この実習が終わった後では、青い海や、豊かな自然に恵まれた島で毎日生活できること、そして人々が互いに協力しながら生きる社会、といった島ならではの環境を多く感じることができ、そこに住む島の方々の気持ちを、短い期間ではあるけれども、少しでも体感することができたのではないかとと思う。

2つ目の島の諏訪之瀬島は、中之島とまた違う個性を持っていた。植生も違う感じがし、道路や集落の雰囲気も異なるものであった。

諏訪之瀬島は、看護師さんが2名駐在しており、島の方々と密接に関わりながら、限られた医療環境の中で精一杯、医療を行っている様子であった。

島には、高校はないけれども、中学生までの子供も多く住んでおり、学校検診を行ったのちに、すぐに保護者に同意をとって治療、という流れであった。

多くの患者さんの診療の後、民宿へ帰って入浴し、食事をいただいたが、疲れた後の食事は格別であった。島でとれた新鮮な魚、フルーツなどはとても美味しかった。また、実習のあいまに、先生方が海や山、トカラ馬、民俗資料館などに連れて行って下さり、様々な貴重な体験をさせて頂いた。

この離島巡回診療実習は、先生方、鹿児島県歯科医師会、歯科衛生士、看護師、役所、島の方々など、多くの方々の協力によって支えられているものであり、この診療に参加できたことは、本当に有難かった。

島のことから、離島での歯科治療のことについて、毎日多くの知識を深く教えて下さった南先生、佐藤先生、そして大変申し訳ないながらも今回の無理な延泊の希望を聞き入れて対応して下さい下さった野口さん、離島での器具の準備や、口腔衛生について教えて下さった歯科衛生士さん、毎日美味しい食事を用意して下さい下さった民宿の方々など、実習では言えないほどたくさんの方々にお世話になった。全ての離島診療に関わる方々に深く御礼申し上げます。

この貴重な体験を、これからの歯科医療に生かしたいと強く思った。そして、これから離島診療に関わる機会があるならば、少しでも力になれる歯科医師になりたいと思う6日間だった。

